

SOWER

特集 聖書に生きる もう一つの人生

ソア=種まく人

NO.4

May 1994

財団法人

日本聖書協会



神のことば
すべての人の
希望

聖書 新共同訳

語り継ぐ 聖書のことば

好評発売中



クロス装旧新約聖書

- 小型聖書 NI44 A6判 定価2,400円
- 小型聖書 旧約聖書続編つき NI44DC A6判 定価2,900円
- 中型聖書 NI53 B6判 定価3,500円
- 中型聖書 旧約聖書続編つき NI53DC B6判 定価4,200円
- 大型聖書 NI64 A5判 定価5,000円
- 大型聖書 旧約聖書続編つき NI64DC A5判 定価5,900円
- 大型引綴つき聖書 NIO53 A5判 定価6,000円
- 大型引綴つき聖書 旧約聖書続編つき NIO53DC A5判 定価7,000円

録音聖書CD版

- イエスキリストの言葉50選 一福音書より抜粋 税込価格2,000円
- 旧約聖書 創世記(全5枚) 税込価格9,000円
- 旧約聖書 出エジプト記(全4枚) 税込価格7,200円
- 旧約聖書 レビ記(全3枚) 税込価格5,400円
- 旧約聖書 民数記(全5枚) 税込価格9,000円
- 旧約聖書 ヨシュア記(全3枚) 税込価格5,400円
- 旧約聖書 士師記〜ルツ記(全3枚) 税込価格5,400円

- 旧約聖書 サムエル記(上)(全3枚) 税込価格5,400円
- 旧約聖書 サムエル記(下)(全3枚) 税込価格5,400円

電子ブック版

聖書 新共同訳、口語訳聖書、現代英語訳聖書(TEV)全書収録、四福音書並行箇所テキスト、図版資料、新共同訳通読モード搭載。 税込価格15,000円

★この電子ブックの再生には電子ブックプレーヤーが必要です。

●ご注文はお近くのキリスト教専門書店、または全国の書店へ。(直接当協会にご注文も可。別途送料がかかります)

●写真以外の聖書のお問い合わせは下記へ。

●定価は予告なく変更することがあります。

財団法人 日本聖書協会

〒104 東京都中央区銀座4-5-1 電話03-3567-1987(ダイヤルイン) FAX.03-3567-4436

SOWER
ソア No.4

1994年5月1日発行 [年2回 11月・5月発行]

発行・財団法人日本聖書協会 〒104 東京都中央区銀座4-5-1 電話 03-3567-1980 振替 東京 6-18410



この雑誌は
エコマーク認定の
再生紙を
使用しています

- 特集
2 聖書に生きる 外村民彦
- エッセー④
8 速水敏彦「しなやかに生きる」
- INTERVIEW
10 関根正雄さん
- BSレポート 国内／海外
12
- 総主事室 佐藤邦宏
13
- PEOPLE
14 Good News Morning !!
北星学園女子中学校ライラック会
- 読者のひろば
15
- 歴史接写
16 神戸のバイブル・ハウス 秋山憲兄
- 聖書図書館蔵書シリーズ—③
17 『死海写本』



わたしは、キリストと共に十字架につけられています。
生きているのは、もはやわたしではありません。
キリストがわたしの内に生きておられるのです。

(ガラテヤの信徒への手紙 2章19、20節)

本田弘慈
日本福音クルセード主幹

キリストの十字架に自分が死に、御霊によってキリストの内住をいただき、このお方によって生きていることを感謝します。この福音が日本中の人に一日も早く伝えられることを願っています。

新4 聖書の 世界

写真／文 横山 匡



エン・ゲデイの 荒れ野

死海の西岸に、エン・ゲデイのオアシスがあります。死海水面から二百メートルの高さの所に「ダビデの滝」が流れていて、人々の憩いの場所になっています。この滝の背後に広がる荒々しい岩山が「エン・ゲデイの荒れ野」で、サウル王に命を狙われたダビデが隠れ住んだ地です。*①②

オアシスの北側には、エッサイ山がそびえています。標高は一九〇メートルですが、海面下四百メートルの死海からは五九〇メートルもそり立っていることとなります。名前のように、ダビデの父をしのはせる威厳に満ちた山容です。

山頂をめざして登るはつらつとした子供たちの一行です。早朝この付近で、アイベックス(野山羊)の群れに出会いました。高い岩山から谷底に水を飲むために降りてゆくところだったのです。

*①サムエル記上24章 ②民数記42・2

*③

特集 聖書に生きる

仕えられるよりも仕えるものに——ボラ

ンティア活動に生きる人々。それぞれの生き方が、今、問いかける「あなたの隣人」とは……

もう一つの人生

外村民彦

元朝日新聞編集委員

一九九三年の三月、フランス人神父ネランさんが東京・新宿の歌舞伎町のど真ん中で営むスナック「エポベ」を訪れると、「こんどこんな企画を立てました。参加しませんか」と、進藤重光エポベ社長から誘われた。案内によれば「マザー・テレサの家を訪ねて」というツアーだった。「彼女の施設で三日間ボランティアをします」と言う。私は「行きます」と即座に申し込んだ。

マザー・テレサと言えば、第二次大戦後、インド・カルカッタの路頭に空しく死に果てようとする無数の人々を施設に集めて、食事を与え、病気の治療をし、人間としての最後の尊厳ある生を与えてきた人だ。その「絶対自己犠牲」とでもいえる、すさまじい他者への奉仕は、世界の注目するところとなり、一九七九年にノーベル平和賞を受けた。

八一年、彼女が初めて日本に来たとき私は一新聞記者として、彼女の行く先々で講演を聞き、またインタビュウもして、記事に書いた。反響が大きかった。ある読者は電話をかけてきて私に「あなたはそのような犠牲的精神があるか。できないようなことは書かない方がいい」と言った。私は「できなくても、このような人がいることだけでも知っていいのではないか」と答えるしかなかった。

そんな取材体験から、私もいつか機会があったらカルカッタへ行ってみたいと思っていた。それが、十年余を経てやっとチャンス到来となったのだ。

九三年八月上旬、私たち一行四十人は、カルカッタ市内にあるマザーのいくつかの施設へ、分散してボランティアに出かけた。私が行ったのは「死を待つ人々の家」だった。ハンセン病などで手足のない人、結核でやせ細った人、行動の自由がきかない人たちが、広いコンクリート床の部屋に起居していた。その姿にまず圧倒された。

夏休みだったせいもあって、若い外国人ボランティアがたくさん来ていた。彼らはなれているのか、患者たちをいとおしむように抱きかかえてベッドから水浴場へ運び、髪を洗い、着替えさせる。私はとてもそんなことはできない。おそろおそろのコンクリート床の掃除をし、衣類の洗濯を手伝い、及び腰で患者のヒゲをそってやるのが、精一杯だった。

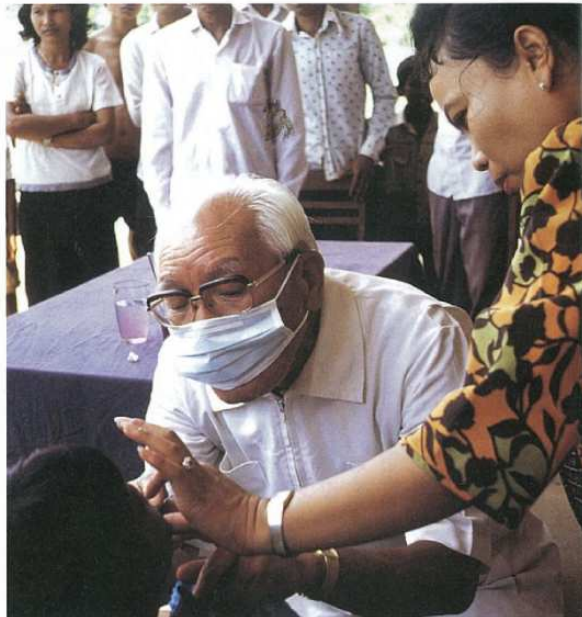
私たちはたった三日間で終わったが、このような作業は、来る日も来る日もつづく。だからやらなければならない。

マザーはなぜこのような行動をしていたのか。彼女はよく言う。「そこにイエスがいるから」と。キリスト教信仰の神髄がここにある。ボランティアの原点もここにあるのではないかと、私は思った。

何もインドでなくても、私たちの周りにも「聖書に生き」てボランティア活動をする人はたくさんいる。ここでは四人の方に「登場を願った」。

カンボジアへ歯ブラシ送る

姫路の歯科医 松崎 豊さん



カンボジアの子供たちの歯科検診をする松崎さん。(上)
小学校で歯磨きの指導を受ける子供たち。(下)
写真提供 松崎 豊

松崎豊さんは、姫路在住の歯科医だ。今七十五歳。戦争中、歯科軍医として四年ほどインド国境に近いビルマの小さな村にある野戦病院で働いていた。そこで終戦。これが原体験となって、東南アジアへの思いはずっと消えなかった。

高松の生家は熱心な仏教徒で、寺の総代を

していた。宗教は幼時から自然に身についたという。大阪歯科医専時代、尊敬する教授がクリスチャンだった影響もあって、学生YMC Aに入り、ハンセン病施設の愛生園などに診療へ行った体験もある。

戦後ビルマから復員したあと、一九五三年姫路で洗礼を受けた。妻の陽子さん(故人)は

三代目のクリスチャンだった。

姫路市内に歯科医院を開いて生計を立てる一方、長い間、姫路YMCAの成長にも寄与してきた。医院の方は長男に譲って、今はひたすら「他者のため」に生きる。

九一年のことだった。姫路YMCAの主事だった草刈賢一さんから、カンボジアやビルマに出かける話が持ちかけられ、同年夏の一か月ほど、カンボジア、ビルマで子どもたちの歯科検診に行く機会が訪れた。とくにカンボジア南東部にあるタケオ周辺の小中高四十

五校で二万人ほどの子どもを相手に、歯ブラシの使い方を教えた。

「歯ブラシを見たこともない子どもが多かった。もちろん歯を磨く習慣はゼロにひとしい。電気、水道はない。小学校にトイレもな



若いボランティアたちと事務所で話し合う
大栗さん。写真撮影 外村民彦



129-3 夢中で、彼は全身の力でヒロ子さんを突き飛ばした。「……向こうへ行け！」
悲鳴を、彼は聞かなかった。その時強烈な衝撃と轟音が地べたを舞たさつて、いもの葉が空に舞い上がった。迎りに砂ぼこりのような幕が立って、彼は、彼の手であおむけに突き飛ばされたヒロ子さんがまるでゴムまりのように弾んで空中に浮くのを見た。

129-4 葬列は、いも畑の間を縫って進んでいた。それはあまりにも記憶

美しく揃った文字で、拡大写本を作成する
越部さん。写真撮影 外村民彦

いし、ノートや教科書が満足にない。四十六年前と全く変わっていないかった……」。

日本に帰って、松崎さんは悩んだ。

「第二次大戦で日本がどだけ東南アジアに迷惑をかけたことか。それが日本だけが豊かになって。戦争の傷あとを見てきた以上、何か手助けできないか……。神は人間を平等におつくりになって、どこの人も同じだと教えておられるのに、不公平があるとは」。

松崎さんに啓示があった。「あなたは歯医者。歯ブラシなら送ってやるだろう。さつそくマスコミにも働きかけて全国から歯ブラシを集める運動を起した」。

その結果、九一年暮れにはクリスマスブレ

孤独な介護家庭を手助け

パールライフ協会の大栗ますみさん

高齢者がふえてくる。しかも核家族化しているから、孤独な環境におかれる。病気がちになる。日常生活が不自由で、介護を必要とする……。だれかが社会的に手助けしていかねければならない。

大栗ますみさんはそんなボランティアの一人だ。東京・青山の一角にある社会福祉法人光照園の「社会福祉活動教育研究所」（新谷弘子所長）の事務所を足場に、支援を求める高齢者や障害者の家庭に Outreach、またボランティアの人練りの世話をする。肩書はパール

ゼントとしてまず五千本を送った。九二年七月には二十万本、九三年八月には歯ブラシ七万本や車イス十台、文房具、紙など計十八万点（約八百万円相当）を送った。

それだけでなく、カンボジアへは毎年出かけている。

「元氣なうちはカンボジアへ行きなさいと神さんがおっしゃるんで……。聖書には「宿を求めた人には宿を。能力によつて能力を発揮しなさい」と、どこも非常に常識的なことが書いてありますよ」。

松崎さんの信念の基本は、あくまでも聖書であった。それも、力んだところは全く感じられず、さわやかさがあつた。

イフ協会生活支援センター長。

この社会福祉活動教育研究所というのは、一九七七年に創設され、相談受け付けや情報提供、ケースワーカー研修、現場のさまざまな福祉援助など、幅広い活動をしている。パールライフ協会はその一組織に入る。

「家族が介護に疲れ果てたあげくに援助を求めてくるわけですが、そのときは本人も参つてしまっているのか、私たちが出向いた途端に入院してしまう例がよくあります。もつと早い段階で連絡があればと思います」。

最近そんな「手遅れケース」がふえているそう。一週間に二件つくこともある。

大栗さんがこの仕事を始めたのは、九二年二月から。それまでは専業主婦だった。

「四年くらい前から老いた義父の介護で疲れ果て、私が入院してしまつた体験があります。そんなことから、在宅ケアの仕事に関心を持つようになりました」。

祖父の代からのクリスチャン。中学のとき賀川豊彦の『死線を越えて』を読んで感動、大学は日本女子大社会福祉学科に進んだほどだ。地域で特別老人ホームづくりにかかわつたこともあるという。

大栗さんもときに在宅ケアに赴く。事務所から遠くない渋谷周辺が多い。掃除や洗濯などの家事をし、買い物の手伝いもする。しかしそれと同時に、本人と会話をすることが非常に喜ばれるそうである。ふだんは心の通い

あう会話が少ないのだろう。「家事半分、会話半分」というウエイトというから、ケアワーカーの存在意味がわかる。

最近、ケアワーカーになろうとする人たちもふえている。五十歳前後の女性が多い。埼玉県から毎日来ている人もいる。

「いつも、手は足りません。どうやって確保するか、苦労しています。長くつづいて介護人を見ると、身近に障害者がいたり親の介護に苦労した人が多いですね。あのときの援助が非常にありがたかった」という経験でしょうが。

「在宅ケアは有償ですから、世話を受ける利用会員になれる人は恵まれています。恵まれない家庭にはどうするか。やはり行政がもっと動いてほしいと思います」。

六十を過ぎた大栗さんは、熱い思いを語りつづけた。

拡大写本に取り組む

弱者のために 越部桃子さん

拡大写本というのは、視力が弱い人のために、教科書や童話、文学作品を、手書きで大きい文字に写す作業である。コピー機で拡大や縮小が気ままにできるこの時代に、なぜ手書きの写本なのだろう。

「弱視者といっても、十人十色でしょ。視野狭窄のために大きい字でも揺れて真ん中

あたりが見えなかったりする人もいます。わけて。その人その人にあつた、一番見やすい書き方にし、文字の大きさも違ってくるのですね」。

写本をする手を休めて、越部さんは語ってくれた。目の前にある、越部さんの拡大写本の文字

アブラムの里の木工所で作業をする大郷さん。写真撮影 外村民彦



を見ると、一、三センチ角くらいの、黒く太い文字は、活字そのもののようにきちんと並んでいる。読みやすい。製本されたものも見せてもらった。

「これは六年生の国語の教科書です。そこらは中学の数学の教科書。どちらも個人用です。」

なるほど、文字の大きさが違う。しかも、手書きとは思えないほど、どのページも一字一字のくずれは全くない。驚きであった。

拡大写本を読むのは、子どもだったり、大人だったりさまざまで、たった一人のための手作りの仕事なのだ。

「普通の教科書の一ページが、B4の大きさが六ページになり、薄い一冊の教科書はこうして拡大写本にすると、二十冊くらいになります。」

越部さんは一九六三年、ご主人の転勤で岐阜県に行つたとき、ひまな時間に何をしようかと考えて盲人図書館で点字の勉強をはじめ、自宅で点字を打つ日々となった。東京に戻ってからもつづけるうち、新聞で「拡大写本」の記事を見つけた。さっそく青山の社会福祉活動教育研究所の事務所へかけつけて、教えてもらうようになった。岐阜から十数年がたつていた。

今、家で毎夕二時間ほどかけて、五枚くらい書写をする。毎週火曜日には事務所に行つて、仲間と校正をし、製本をする。自宅で書写の作業をしている人は、地方にいる人も含めて二十余人。製本の日には事務所に十数人

が集まる。校正のとき、誤字を見つけると、そのページは全文を書きかえなければならぬ。神経を使う仕事である。

「弱視者への奉仕は、谷間の仕事です。しかしボランティアの活動者はふえている」そう。越部さんは二代目のクリスチャンという。

“人生の旅人”の相手役に

「あぶらむの里」の大郷博さん

飛騨高山に近い、岐阜県吉城郡国府町の山里を行くと、「あぶらむの里」という案内が見える。南斜面の丘に広がるナラの林を背にした二階建ての建物は「あぶらむの宿」。ここに、立教大学でチャプレンをしていた大郷博さんの一家が暮らしている。

「あぶらむ」は、もちろん旧約聖書のアブラハムの別名アブラムからとった名前だ。

「ここは、人生の旅人たちと接触する場所です。仕事で疲れた人、サラリーマン生活に疑問を持った人、家庭の問題に悩む人が、ひよつと憩うためにやってきて、泊まりがけで語り合う、そんな場所になっています。」

四十八歳の大郷さんは、そう語る。「人生の旅人」。いい言葉だ。

大郷さんは若いころホテルマンになろうと思った。「人生は奉仕なり」と言つたアメリカのホテル王スタットナーの言葉に感動したからだ。ハワイのホテル学校にいたとき神

「キリスト教信仰というのは、保証のない中で、神髄を求めて進むものではないか。聖書のヘブライ人への手紙には『まだ見ぬ事実を信頼して進む』ということが書かれています。アブラムやモーセは、保証がないのに、神の示しによる内的必然性のゆえに、立ち向かつていったのだと思います。このあぶらむの里も最初は、この世間的保証はいっさいなかった。」

地に足をつけた信仰がうかがえる。

三年を過ぎて、毎年延べ千人の宿泊客があるそうだ。親との確執に悩む若い女性、人間関係に疲れたサラリーマン夫婦、乳がんと戦ってきた人、落ちこぼれと指摘されて送り込まれた中学生……。訪れる「人生の旅人」は千差万別。大郷さんは、一人一人と、食事のとき、作業のとき、散歩のとき、雑談の中に真実を求めて語りあう。

いま敷地の中に「研修センター」をつくらうと、整地をすすめている。

私はある年の真冬の深夜、東京・浅草のカトリック教会のホールに寝る無宿労働者を、取材に行つたことがある。事務室には、寝ずの番のボランティアがいた。一人は日本人学生だったが、もう一人は大柄な外国人だった。聞けば、オーストラリアの銀行の東京支店長だと言う。「ボランティアの募集に応じてきました」と彼は語った。机の上には分厚い本があつて熱心に読み、メモをしている。シェー

好きな聖書の言葉は「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ第二十五章四〇節)と答えた。

そういえばこの聖句は、マザー・テレサの行動の基本となっている言葉でもある。

縄のハンセン病患者を描いた、クリスチャンの青木忠哉氏著『選ばれた島』を読んで、病者の苦痛を知り、福祉への目が開かれた。沖縄の施設愛楽園に泊まり込んで働くうち、クリスト教へと導かれていった。神学校に進み、牧師となった。大郷さん自身、「人生の旅人」である。

年月を経て、「キリスト教—ホテル—奉仕—人生」が結びついた仕事を考え始めた。東京から車身、高山に来て木工の技術を学び、やがて家族を呼び寄せ、国府町の郊外に六千坪の敷地を見つけた。立教大学の教え子たちや多くの友人、知人の援助で、一九九〇年秋「あぶらむの里」完成にこぎつけることができたのだ。三千万円をかけた「宿」は、築後百年の飛騨の民家を二百十万円で購入求めて移築したものだ。天井の梁が堂々としていて、湯いた旅人の心に、オアシスのような安らぎを与える。

クスピアの『ヘンリー四世』だった。

私はその姿に、目を見張った。「一分でも時間があれば、一円でも多く金を集める」はずの銀行ではないか。それが、銀行の支店長が自分の時間を他者にささげている。

どうも欧米人は違うなと思う。ボランティアがよく「自己満足」とか「慈善は偽善」と言われるが、それは第三者的に(何もしないで)無責任に言っているにすぎない。

キリスト教世界でボランティアが盛んなのは、単に自己満足、慈善の意識でなくて、聖書が教える隣人への奉仕、小さい者への行為を、幼時から社会的にインプットされているからだと思う。学校生活でも、ボランティアは学業成績と同様に、重要な要素となつていく。イエスが十字架にかかって世の人のために血を流した事実が、今なお人の魂をゆさぶり、「他者への奉仕」を行わせているのではない。日本の町角で、車イスに乗っている人に会えば近寄ってほえみかける外国人女性の姿を、私自身何度か目撃したことがある。

しかし最近日本でも、ボランティアがごく自然に取り上げられ、行われるようになってきた。何もクリスチャンでなくとも、ボランティアに精出す人がふえている。学校でボランティアを重視する動きも、新聞でよく報道される。喜ばしいことだ。「イエスの教え」が浸透してきているのではない。そう私は思っている。

しなやかに生きる——人間の魅力



速水敏彦 1927年台北市(台湾)に生まれる
現在日本聖公会司祭、
立教大学名誉教授。

昨年の夏、北軽井沢における香蘭女学校の高校二年生の勉強会に講師として招かれた。二泊三日の合宿で、生徒たちに進路決定のヒントになるような話を、との依頼であった。私は自分の体験をまじえながら人間の生き方について話したが、三回にわたるその講話の冒頭、「この勉強会の最後のまとめの時間に、皆さん自身、"Tomorrow is another day"という英語を、自由に意識して発表してください」とお願いした。実は、この言葉はD・H・ロレンスの『死んだ男』の最後に出てくるせりふである。福田恆存訳では「あすのことはあすにまかせよう」となっているが、かつて私は、「明日は明日の風が吹く」という日本のことわざをそのまま適用してもよいのではないかと考えていた。しかし同時に、「明日は明日の風が吹く」という言い方には、明日はどうなるかと、人間の力ではどうにもならないのだから、くよくよせずに、なるがままにまかせて生きてゆこう、といった運命的諦観がこめられているように思えて納得できずにいたのである。

高校生との勉強会の最後の日、私がお願いした課題にさまざまな答えが返ってきた。「明日は南風が吹く」「明日はちがう自分になつてゐるぞ」「明日は立ち上がる時」「明日は新しい日」「日々新たに」「毎日脱皮」「日々に自分を刻む」といった希望の響きをもった訳が多くあったことはとても嬉しかった。また、「今を生きる」「今を真剣に生きる」といった現在の生の充実を強調する訳もかなりあったが、その中で「今をしなやかに生きる」という訳を聞いた時にはまったく驚いてしまった。これこそ私が彼女たちに語りたかったことの内容を的確に表現

している言葉であつたからである。

今日、わが国では、教育の分野だけでなく、スポーツ、芸能、ファッションと、私たちの生活のあらゆる面において、「個性」の確立と「多様性」の容認がうたい文句のひとつになっている。しかし、それらが何の歯止めもなしに徹底されると、人間はかえって人間らしさを失い、人間の魅力がなくなってしまうのではなからうか。

個性とは、文字通り、「他人に割くことのできない固さ」を意味する。確かに、個性は自己形成に不可欠である。ところが、一般に、個性の強い人、すなわち、信念の人とか正義の人、強い信仰の持ち主と言われる人は、人々から敬意を表されるが、なかなか近づきにくい。しかも、その人たちの固さがありますます徹底されれば、彼らは人間の弱さや過ちを決して許すことのできない「真理の権化」「裁きの神の代理人」となり、硬直化した精神をもって独善的・排他的な生き方をする。個性が魅力的な個性となるためには柔軟な精神が必要である。柔軟な精神とはユーモアを解する心と言つてもよい。それは、マイナスと考えられているものを切り捨てず、プラスと考えられているものとともに受け入れることのできるバランスのとれた精神である。

他方、多様性の容認とは、ひとつの価値に固執せず、あらゆるものの価値の相対性を認めるということである。このことは、裏を返せば、この世の中には確かなもの、真実なものは何ひとつとしてないのだという懐疑主義的な生き方につながる。多様性を主唱する人の寛容と物わりのよさには、世をすねた冷笑的なものが潜んでいる。この生き方を徹底すれば、その人は真理の侮蔑者となり、人々を神から離反させる「悪魔の手先」となってしまう。人の心を引きつける寛容には、どのような苦難にもくじけない強靱な精神が宿っていなければならぬ。

しなやかに生きるとは、柔軟な精神と強靱な精神をもって生きることである。そして、そうした生き方を通して、私たちは人間であることの美しさ、尊さ、有難さを知るのではなからうか。高校生との勉強会の最終日、彼女たちの顔は非常に魅力的に輝いていた。

——旧約聖書の全訳の出版おめでとうございます。私事で恐縮ですが、先生の『預言と福音』の創刊号で初めて先生の翻訳を拝見しました。

——ある意味で無謀なことという感じが正直なところだと思います。学問的と同時に信仰を持って翻訳されるというのは本心に未曾有なことですね。

——四十年前、創世記でしたか。関根 そうです。あれをまとめたのが、五六年に出ました岩波文庫ですね。初めから出来れば全部訳そうと思っていた。この頃の方は旧約の中の何かを専門になさる。ところが私は初めから全部訳しているというやり方をしました。

——全訳をやりたいとお思いになったのはドイツ留学の頃からですか。関根 具体的には、塚本先生に言われて。先生が新約全部をやられていたわけですね。五十年代初めでしょうね。ドイツで歴史も神学も言語もまんべんなくやっていたというところもあるでしょうね。

——こういう全訳というのは、ヒエロニムス、ルターとありますが、近代ではどなたがいますか。関根 現代の旧約学を踏まえてやっているという人はわたしの知る限り、欧米にもありません。プーバーがローゼンツヴァイクと二人で訳した有名な旧約聖書があります。けれど厳密に言えば、プーバーは旧約学よりもむしろ、ユダヤ教の神学者です。今申したような現代の学問的なことを踏まえて、全体を訳すというところ

——全訳をやりたいとお思いになったのはドイツ留学の頃からですか。関根 具体的には、塚本先生に言われて。先生が新約全部をやられていたわけですね。五十年代初めでしょうね。ドイツで歴史も神学も言語もまんべんなくやっていたというところもあるでしょうね。

個人訳を完成



旧約聖書の 関根正雄 さん

1912年東京生まれ。40余年をかけて旧約聖書を全訳、現在教文館から刊行中。
千代田無教会集会主宰。日本学士院会員。

から帰ってきても自分の専門以外ではどこにも就職しないと決意をしておりました。
ところが高津春繁先生が、初め文理科大学でギリシア語を教えてはとおっしゃったけれど、専門ではないからとお断りしていたんですが、「二、三年して教育大学になりました」ときに、また高津先生が勧めてくださったものだから、ヘブライ語・旧約を専門として認めてくれるならという条件を出したんです。そうしたらそれを認めてくれたんです。

——先生の翻訳は原文のトーンを出すように心がけておられるそうですね、大変なことですね。関根 それは言うに易く、行つに難いことなのですが。例えば、創世記

——そうすると先生は日本語の文体について詳しく知っているというわけ。関根 いえいえ、そういうこととはないんですが、昔いろいろ文学を読みましたね。永井荷風などに愛読しました。中助助なんかも好きでね、愛読しましたね。そのほかにも、漱石、開外はもちろんですけどね、かなり若いときは読みました。
——荷風は意外でした。先生のは海外の漢文体や志賀直哉の断定的な男らしい文体なども多少入っているかなと思ったりました。

関根 近年亡くなられた興居正敏君

がね、わたしの文体が内村鑑三と藤井武の文体に似ているといった批評をされましたが、それがあつたは当たっているかも知れません。しかしわたしはかなり難読していますから、それがいいことではないですね。
——創世記一章一節のところは、ほかの訳は全部「神は創造された」なのに「神が」になっていますね。ほかの何物でもない神がということですね。関根 そうです。それは意識しているのです。

——一節は先生の「地は混沌」として「地」です。これは前の文脈訳では「かたかなく、むなし」となっていますが、二つの言葉なんです。関根 そうです。私が「混沌」と訳したら新共同訳でも「混沌」となっていましたね。この問題は私も考えてしまつてね。この「混沌」という訳は、ようやく日本に定着し始めたのです。トーフ・バーバーはエニヤ四章三節に「かたかなく、むなし」と訳しています。このエニヤは「混沌」が正しいという結論になったわけ、本当「地は混沌しく」くらいにじつかなと思つたんですけれど、最後の決断がつかなくて、結局「混沌」に戻りました。

——推薦の言葉で野本真也さんが翻訳は苦行だが、先生は苦行の段階を乗り越えておられると……。関根 そうですね。わたしはある意

味では苦行を超えて、いついつやっているのが楽しい、そういうことは言えると思います。
——毎日長時間ぐらに机に向かってらしたわけですか。関根 若いときはずーっと話めしな。ただ八十過ぎますとね、そんなに話めはもらえませんが、夜もやることはあります。
——午前中午後とも夜も、すごい。関根 ええ、ただその間にね、必ず一時間、雨が降つても風が吹いても近くの善福寺池まで行つてくるんです。今日も後で行くんです。健康法は散歩だ、と思つてます。
——散歩だけでもいいですか。関根 健康に恵まれていないとこのお

仕事はとてできないでしょう。関根 その点はおっしゃる通りで、健康が七十代でガクンときたら、これは何と言つても覚えてなくちゃいけない仕事です。ある意味で読める仕事ですからね、できませんね。今の仕事をやるだけの健康は与えられているとは思いますが。
——集会も「回も休まれた」とは。関根 一回もというところはあります。数年前一か月入院しましたね。それ以外はあまり休みませんね。
——五十年間ほとんど休まず、毎週、やはり先生の場合は、伝道もやつとつじやるんで、単なる言語学者の翻訳ではなくて、伝道して回つて聖書の言葉を聴こうとしておられて、その中で翻訳をなさっているという、そういう特色が出ておられます。うか。

——それが出来ればありがたいんですが、私は自分で言うのも変ですが、大した事はしてないけれど、注解や解説という事は自分には一番向いている仕事のように思います。ですから本言いますとね、注解を読んだら下さる、ああこういう読みがあるかということ、多少参考になるかと思つて。注解というのは現代に生きてやるわけですから、大変な仕事ですね。けれど私の仕事は根本的には解釈ということがあ

——どうもありがとうございます。インタビュアー＝高戸要(教文館)

国内

●日西（スペイン）新約聖書完成

アルゼンチンの日系人教会の強い要望で、日西対照新約聖書が完成いたしました。（装丁／A五判、ビニール表紙、本文八ボ、欧文九ボ、総ルビ、九百十二頁、定価二千三百円、四月一日発行）

この聖書は、在連日系宣教六十年（一九九三年）の記念事業として進められていました。アルゼンチンの日系人クリスチャン、未信者の方はもちろん、南米各国、また、日本に在住する南米の方々にお届けするための聖書です。

日西対照新約聖書



●THE BIBLE TO YOU..

ながさき聖書展

聖書知識の普及と関心を高める「聖書展」を中心に、各地で第二

次バイブルキャンペーンを展開しています。今年は、長崎市で準備中です。「THE BIBLE TO YOU..ながさき聖書展」（主催／長崎聖書展実行委員会）と題し、六月二十二日（水）から、二十七日（月）までの六日間、市内の浜屋百貨店・八階催事場で開催（入場無料）。会場では、「聖書翻訳の歴史」、「日本語聖書の歴史」、「長崎と聖書」など、各種コーナー毎に貴重な資料を展示いたします。

記念講演会
日時 六月二十五日（土）
午後二時から四時
於 長崎市平和会館ホール
講師 加賀乙彦氏（作家）
入場料 千円

一九九三年五月、「聖書 新共同訳」の引照つき聖書を発刊いたしました。この聖書は、大変皆さまからお待ちいただいた聖書ですが、その製作に四年ほどの歳月を必要といたしました。

新しく製作するのですから、世界的にも評価される充実したものを志しました。まず、世界のいろいろな引照つき聖書を調べてみました。その結果、口語訳聖書が、かなり充実した内容のあるものだったということが分かりました。

●達成！東欧・旧ソ連へ聖書を！

総募金額九千八百八十七万円
一九九〇年五月、緊急募金としてスタートした「東欧・旧ソ連へ聖書を」贈る特別募金活動は一月十七日をもって第一期の活動をすべて終了いたしました。

募金目標九千万円に対し、この三年七か月余に全国の教会、信徒の皆さまからお寄せいただきました献金は、九千八百八十七万四千六百八十八円にも及びました。ご参加いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

●第十回 夏の聖書セミナー

開催中

恒例の夏の聖書セミナーも第十回目を迎えました。今年も、四月九日から六月二十五日まで、隔週土曜日に六回にわたり、教会館の九階で開催。テーマと講師は前半が「出エジプトの神」木幡藤子氏（広島大学助教授）、後半「ヘブライ人への手紙の魅力」川村輝典氏（東京女子大学教授）です。

●第九回聖書セミナー

講義録完成

「旧約における主流と反主流」荒井章三氏（松蔭女子学院大学教授）／「ヨハネ黙示録」佐竹明氏（フェリス学院大学教授）／定価千七百五十円、発売中。

●第十回 聖書と私

作品コンクール募集中

絵画と感想文の二部門を募集します。絵画は、聖書の中から自由に題材をお選びください。感想文の題は、「わたしの好きな聖句」ほか、幾つかに分れております。奮ってご参加ください。締め切りは七月十五日（金）。詳細は、広報・募金部（☎〇三―三五六七―一九八〇／担当 当真）

海外

●六百万冊の聖書を印刷

一九九三年十月十六日、中国南京にある愛徳印刷廠は、操業開始以来、六百万冊の聖書を印刷、頒布しました。愛徳印刷廠では、九四年に百六十万冊、九五年に百八十万冊の印刷を目指しています。

●カンボジアの現況について

カンボジアの人口は、約九百万ですが、地雷などの戦火で被害を負った人が十四万人、孤児が二十万人とのことです。

一九九三年十月十日、クメール語新約聖書の奉獻式が、プノンペンのカトリック教会で四百人の出席を得て行われました。既に、旧約聖書の翻訳も始まっております。

カンボジアには、カトリック一万二千、プロテスタント一万人の信徒がいると言われております。ポル・ポト派が支配していたクメール・ルージュ時代には、キリスト教だけでなく、仏教や、モスレムの寺院、モスクは破壊、または没収されました。しかし今、平和が戻り、二万冊の聖書、新約聖書が

代訳が、多くの人々に受け入れられることが期待されます。

●UBS（聖書協会）世界連盟の募金作業部会



募金作業部会（シンガポール）

東欧・旧ソ連へ聖書を提供する募金運動は、世界にさまざまな反響を生み出しました。その一つとして、従来資金の援助を受けていた国々でも、このための募金が進められました。これまでのパートナーが崩れたのです。聖書を必要とする人たちのための募金運動をUBSは見直しています。この作業

に、佐藤総主事も世界の九人のメンバーの一人として参加しています。

●マーケティング・ワークショップ

昨年九月、アジア太平洋地区の聖書協会の頒布担当者二十が、二十一名がインドネシア・パタニ島に集まり、「マーケティング」の研究集会を持ち、出版、頒布、募金、マネジメント等、聖書事業全般にわたって学びました。特に、アジア地域での英語聖書の重要性、付加価値のある聖書の開発、ステディバイブル、流通問題等に出席者の関心が集まりました。ちなみに、アジア・太平洋地区は、世界の四十五％の聖書を頒布しているビッグマーケットです。

総主事室

『聖書 新共同訳』 引照つき聖書の発刊

佐藤邦宏

所を新しく加えたり、訂正したりしていただきました。第四段階は、「聖書 新共同訳」本文に最終的な責任を持つ「共同訳聖書委員会」による監修です。これは数人の専門家、世界的にも、かなりレベルの高いものになったと自負しています。

もうひとつの特徴は、「続編」部分の引照が初めて加えられたことです。しかし、「続編」なしの出版は、この部分を削除すること

が技術的に困難なため、「続編」以外の部分での「続編」からの引照表示はそのままになっていますので、ご了承ください。

引照箇所は、旧約四万八千六百六、新約二万一千八百八十四、続編二千三百四十一、合計七万三千三百三十一か所になっています。また、総ルビであるしも、この引照つき聖書の特徴です。ぜひ、ご愛用ください。

ご案内

読者のひろばは、読者の皆さまからの
聖書に関する(内容など)ご質問にお答えします。
またお便りもお寄せください(200-400字程度)。
FAX(03-3567-4436)でも受け付けます。
ご掲載分には記念品をお送りします。

読者のひろば

んを、我家にお迎えしたのが十一月の文化の日でした。音楽の教師をされた後、今でも生徒さんをお持ちの現役のピアノの先生です。

暮れも押しつまった土曜日の午後には、引退牧師であられるS先生をお訪ねしました。妹が九四年度の教会手帳をお渡しすると、目を輝かせて喜んで下さり、帰る前に私たちの為に折って下さいましたが、私自身はノンクリスチャンなのですがその小さなまじわりの祈りにとても感動しました。

年が明けて一月、私の勤務している知的障害者の施設に入所されている方のお母さんを自宅にお訪ねしました。多くの苦勞も何のその、福祉センターでの陶芸やダンスを楽しみ、「私、まだまだ遊びたいの」とおっしゃる。自分を楽しんでおられる方は、障害を持った娘さんへの愛情もとてもびやかですばらしいと思いました。

三人の女性たちの強さとしなやかさと優雅さに接して、「老いていく」ことをとても肯定的に受けとめている自分に気づきました。

なんだか来月も素敵な女性にお目にかかれそうな予感がしてきました。

背景、その他ルカとの対比を含めた精細な話は、常に評読しているにもかかわらず、毎回目から鱗が落ちる思いの連続でした。十二月の初めに講義が終わり、ノートとテープの整理をしている時に、たまたま目にした新聞記事とテレビの映像に注目させられて、改めて聖書のみ言葉に思いを深くさせられた事でした。

テレビは今世界で問題のカンボジアの密林中のボロボロの取材映像でした。地雷で片脚を失った兵が、松葉杖をつきながら、上官の目をかすめて、「平和が欲しい、とにかく平和だ」と語る姿はとても印象的でした。かつては密林中を飛び回って戦闘に明け暮れた姿は、そこにもはやありません。新聞記事は米「タイム」誌よりの転載で「地雷追放へ道険し」の表題下に、現今世界の紛争地の実情と悲惨を伝えた記事でした。国連の推計では、多くの紛争地、六十か国余りに、一億個の重さ一kgに満たない、手のひらサイズのプラスチックの塊が、しかし踏みつけると子供なら木端微塵にもする威力を秘め、山野、道路、水田、畑に至るまで、しかも紛争後も、そのままだに放置され、無辜の犠牲者を持ち潜えているのが現実とのことです。イエスの「至福の教え」を学んだ後で、この様な人間非情の報道に接すると、人は何と身体も無き生き物なのか、「コヘレト」の言葉に思いを至らされた年の暮れでありました。

(日本キリスト教団調布教会員)

点字聖書が普通の聖書と同じほどの値段で買えるよう、採算を無視した定価設定をしてあると聞いた時には本当に驚いた。しかも赤字は、募金という私から見れば随分不安定な収入で補っていると言う。私は普通の聖書が読める者としての責任のように感じ、初めてのデートだった喫茶店で(！)後援会員になった。

夫は十八年前、聖書協会のニュースに、聖書協会の日課表を使っている教会を通して、小学生だった彼に投稿を勧めた聖書協会の方が、それから彼が聖書協会に入るまで全く面識がなかったが、やがて私たちの結婚の際に証人代表を引き受けてくださるようになる。

彼は今でも毎晩寝る頃になると聖書を持ち出してきて、もう半分眠りかけている私の横で朗読してくれる。彼と出会って聖書協会と出会って三年余り過ぎた。洗礼を受け、結婚し、子供が生まれ、それでも総合職で頑張っていた証券会社をやめず、実家の両親の絶大な協力も得て、何とか暮らしてきた。その原動力は、常に聖書のみことばが何らかの形で、私たちの生活にインスピレーションを与えてくれたところにあるような気がする。

(日本キリスト教団渋谷教会員)

PEOPLE

Good News Morning!!

北星学園女子中学校 ライラック会



北星学園女子中学校のライラック会は、全校生が加入する「宗教活動の生徒会」です。当会30年の歴史にはさまざまな活動がありますが、最初から引き継がれてきた活動の一つが聖書輪読会です。学校祭、遠足、テストなどの日を除き、毎朝8時から約10分間、地道に営々と読み継いできました。

年により、新約から、旧約かなどとスタイルは変わりますが、毎朝平均1章前後を読みます。司会は役員生徒がしますが、集いは全くの自由参加です。ここ数年ほどは年間平均20数名ですが、かつては先生も生徒も各1~2名といった時代も経験しました。しかし、振り返って、途切れることなく継続できた日々の重みに、主の恵みを実感しています。

年度末の終業式で、皆勤賞と精勤賞が授与されます。一枚の賞状(副賞も付きますが)に、ふとこぼれる微笑みを見る時、この生徒の生涯に豊かな主の祝福を願う気持ちを押さえることができません。

ライラックは、創立者スミス先生が母国アメリカから移植されたものが、今や札幌を代表する木となり、初夏の校庭に街角に芳香を漂わせます。聖書で育った生徒たちが、「キリストのかおり」(コリII)を放つ人となるよう祈りたいと思います。

柴田 勝
北星学園女子中学高等学校宗教主任
日本キリスト教団牧師

素敵な女性たち 上田美智子

最近お会いした三人の素敵な女性たちのことをお話したいと思っています。後から気がついたのですが、まったく別々にお会いしたのですが、そろって八十代の方たちなのです。私は三人の女性たちのちょうど半分の年齢なのですが、彼女たちからエネルギーとやさしさをたくさんいただきました。

最初にお会いした妹と同じ教会のWさ

年末雑感 熊谷寿一

昨秋、私は聖書協会の主催するセミナーで「マタイによる福音書を読む」と題する川島貞雄教授の講義を拝聴する機会に恵まれ、聖書の持つ奥深き魅力の一端に触れることが出来て、誠に良き勉強をしたと感謝しております。勿論限りある時間の中でマタイ全文は無理としても、それでも約1/4の「山上の説教」までマタイの構成、思想、イエス像、特色、

聖書協会と出会って 中村素子

聖書協会を知ったのは、夫との出会いと同時にだと言えは、正しくないかも知れない。私は中学、高校とミッシヨンス系で、毎日聖書を学んでいたのだから。しかし、聖書協会が単なる聖書の出版社ではないと知ったのは夫に出会ったからだった。

点字聖書があることすら知らなかった私は、一冊分が膨大な量になってしま

聖書図書館蔵書シリーズ—③

死海写本

ハバク書注解 イザヤ書 共同体の規律
BC2-1世紀（複製）



ハバク書注解
1.60m×15cm

イザヤ書
7.35m×28cm

共同体の規律
2.00m×25cm

1947年にベドウィンの羊飼いが、イスラエルの死海に近いクムランの洞窟で偶然に素焼きのかめに入った巻物を見つけた。これが今世紀最大の考古学上の発見と言われる「死海写本」の発見の最初である。

これらの写本の中にはエステル記を除く旧約聖書の全書があり、中でもイザヤ書はこのほかよい保存状態であった。

これらはユダヤ教エッセネ派のクムラン教団が残したものである。

死海写本は従来知られていたヘブライ語聖書の写本より、約千年古いものであり、聖書本文の研究に大きな貢献をした。

歴史接写

秋山憲兄

キリスト教文書センター理事長

神戸のバイブル・ハウス



1907年、神戸市江戸町95番地に建てられた聖書館

そして一九〇四年に、日本における聖書事業を東西に二分することになり、東（名古屋以東）はアメリカ聖書協会が、西はスコットランドと大英聖書協会が担当することになった。そこで、英系系の両聖書協会は、日本支社を横浜から神戸に移し、神戸市居留地京町二四番地に事務所を置いた。

京町二四番地は、現在の神戸市立博物館のあるところである。その後、前町十四番地に一時転じ、一九〇七年には、江戸町九五番地屋敷に土地（約五百坪）を購入し、聖書館を建設した。写真は当時のバイブル・ハウスの建物である。現在そこにはリクルート・ビルが建っている。

初代代表F・パロットは同地域の聖書事業の基礎を確立したが、一九三〇年辞任、後任のヴァイナルは各地を巡回し聖書の普及に尽力したが、英本国の援助が途絶えたため、江戸町の土地と建物を売却し、これを財源に日本・朝鮮・中国の聖書事業を続けるとともに、その一部を現在の銀座聖書館ビルの基本金に寄贈した。

大英・北英聖書協会が神戸において出版した聖書（神戸版聖書）は、一九〇四―一九一二年の明治期において約十五種を数える。

その中には、ローマ字の新約全書、和英対照新約全書、小型の福音書の分冊、豆本など、西の神戸らしい特長がみられる。印刷は、福音印刷合資会社神戸支店（元町一丁目二四番地）であった。

編集後記

特集「聖書に生きる」は、わたしたちの身近なところで生きておられる三名と「あぶらわの里」の主宰者を紹介いたしました。外村民彦氏の素晴らしいルポをいただきました。「わたしの兄弟である」の最も小さい者の一人にわたしたちは、わたしにわたしたちの心から感謝申し上げます。

一九九九年の日本聖書協会「ユース」年四回発行から二十五年、新たにリニューアルした「SOWEN」の号号をお届けしてJBSの勤務から去ることになります。勤続三十二年、全国の多くの方々からお励ましをいただきました。万感胸に迫るものがあります。これからは、一會員としてJBSの新たな事業に参加し、「SOWEN」が、育て実を結ぶものとなります。また、折るものです。いざさか個人的なことに及びましたが、おゆるし下さい。ホントにアリガトウゴザイマシタ。

● 第4号 MAY 1994
発行 財団法人日本聖書協会
104 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3567-1980
FAX 03-3567-4436
振替 東京618410
表紙イラストレーション 日本一
デザイン株式会社デザインコンプレックス
印刷 版下川株式会社メディット
印刷 文芸堂印刷株式会社